

学校図書館法

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする

学校教育目標

よく考える子
思いやりのある子
たくましい子

児童の実態

多くの児童が本好きで、読書量も増加しており、調べ学習等で図書館を利用する機会も増えてきた。

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育て、生涯学習の基礎を培う。

ねらい

- ① 児童の読書意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身につける。
- ② 学び方指導を充実し、図書館活用の望ましい態度や技術を高める。
- ③ 多様な資料から目的に応じた情報を選び、課題解決を図り、情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ① 教育課程全体を通して、計画的な読書活動と学校図書館の活用を推進する。
- ② 学校図書館を活用した教科等の学習の充実と情報活用能力の育成を図る。
- ③ 学校司書教諭を中核とした学校図書館教育の推進を図る。

各学年の重点目標

第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物を楽しんで読もうとする。 ・図書館に親しんで利用できる。 	第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の本を読もうとする。 ・身近な生活の中から疑問を見付け調べようとする。 	第五学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通して知識を増やし、心情を豊かにする。 ・調べた情報を比較・分類し、伝え合う。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物を進んで読もうとする。 ・簡単な資料収集や記録の取り方を身に付ける。 	第四学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の幅を広げ、進んで読み、読書量を増やす。 ・身近な問題について調べ、分かりやすくまとめる。 	第六学年	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた本を選んで読書習慣を大切にする。 ・情報を整理・分析し、分かりやすく表現する。

具体的な取組

〔各教科〕

- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。
- 読書指導を行い、読書習慣、態度を養う。

〔読書科〕

- 「読書チャンピオン」「おすすめの本の紹介」等による読書の推進、習慣化を図る。
- 図書館機能を活用し、課題解決学習、調べ学習等探究的な学習を行う。

〔総合的な学習の時間〕

- 学び方や考え方を身に付ける。
- 課題の解決、探究に主体的に取り組む。
- 系統的に情報活用能力を育成する。

〔特別活動〕

- 図書委員会を中心に、自発的・自治的に図書館を運営し、読書活動推進を展開する。
- 特別活動の中で積極的に図書館を活用する。

〔特別の教科 道徳〕

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で、自分を深め、道徳的心情を培う。

〔家庭・地域との連携〕

- 学期1回の読書旬間による読書の推進。
- 読書ボランティアや小岩図書館との連携。

朝読書の推進

図書環境の整備・充実

学校図書館サテライト事業